

公明党の自立路線時代(5)

平野 貞夫
元参議院議員

抜本的税制改革への裏側

スタタモンダの第109回国会が閉会となり、次の臨時国会で税制改革がどの程度進むか、これがポスト中曽根の鍵となる。原健三郎衆院議長の斡旋で設置した「税制改革協議会」をスムーズに動かすには、議長の諮問機関である議院運営委員会次第だ。1987(昭和62)年6月11～6月24日まで、越智伊平議運委員長を団長に各党理事が欧州を視察した。

この議員団は、越智委員長長の強い意向で夫人を同伴させることになる。問題は夫人の旅行費用等をどうするかだ。公明党からは近江巳記夫理事が参加することで、同行の私が一苦労する。今回はそんな裏話から始めよう。

越智委員長は議員団の夫人の航空運賃744万円

を、後藤田正晴官房長官から内閣機密費で出してもらう。宿泊費のホテル代は夫妻一括で衆院公費から支払いできる。ということでも京成トラベルに私が支払いを済ませた。ところが出発の二日前の6月9日、近江理事から電話があり「夫人同伴についてマスコミから批判が出て、公明の場合、費用の出所が問題になりそう」だとのこと。辞退したい意向であった。

いままさら辞退すればさらなる問題が出ると思い、越智委員長に相談した。結論は私が、各議員から150万円預かったことにして、偽造の預り書を平野名義で作って渡すことになった。野党理事だけでよかろうということ、社会2人・公明・民社の4人に預り書を届けたところ、大変に感謝された。

ところが海外旅行中さらなる問題が起った。現地時間の6月12日、西ドイツ・ボンのホテルでの出来事。

越智委員長から「後藤田官房長官に、出発時に気をつかってもらったので礼の手紙を出したい。書いてくれ」とのこと。万年筆で越智委員長名で書いたところ、「各議員に署名させて一緒の名の礼状にしてくれ」と無茶なことを言い出した。

「それはまずいですよ。官房長官から気をつかってもらったことは、派遣議員は表向き知らないことですよ。それにこの文章で署名させるのは気の毒ですよ」と言うと、越智委員長は「僕が誤解されないうためだ。文章はこれでよいので、署名してもらってくれ」と受け入れず、命じられた。困ったなと思いつつながら各議員の部屋を廻ると、何事もなく署名してくれた。この議員団に幸か不幸か共産党が参加していなかったの助かった。1980年代は、こういう時代であった。

第109回国会召集日の7月6日、会期65日間の議決が社会・公明・民社各党の異例な賛成で成立した。6月の議運委員会の海外旅行の成果が早くも出たことに腹が立つ。

税制改革をスタートさせた公明党

この臨時国会では「税制改革協議会」の答申が出ることになっていた。中曽根康弘首相は売上税法案に代

わる大型間接税制度の答申を期待したが、そうはならなかった。7月24日、税制改革協議会は「マル優等の利子課税存廃問題」について与野党の主張を併記した中間報告をおこなった。これに基づき政府は「所得税法等改正案」として、サラリーマン負担軽減などの若干の減税を含んだマル優等原則廃止を内容とする法案を提出した。

「マル優等原則廃止」に強く反対する社・公・民3党は、国対委員長会談を開き「内需拡大のための国際公約である2兆円規模の減税を先行させるべきである。恒久財源問題については、税制改革協議会の協議を続けるべきだ」とした。3党は重大な決意で臨むとして、政府が提出した「所得税法等改正案」の審議に及びなくなる。

8月4日の自・社・公・民国対委員長会談で、自民が減税上積みを示し審議入りを要請。幹事長・書記長会談を求めたが野党は応じなかった。自民党の竹下登幹事長は事態を憂慮し、売上税法案廃案の裏方で側近の小沢一郎代議士に公明党の説得を要請。私に電話があった。

○小沢 竹下幹事長から減税問題で公明党を説得して欲しいとのこと。権藤と二見に、今夜、向島の波む

らでと連絡して欲しい。

権藤恒夫議員と二見伸明副書記長へ連絡をとった直後、竹下幹事長から「一郎から話があったと思うが、自分は赤坂の『満がん』で返事を待っているの、よろしく頼むよ」との電話がある。午後7時に4人が揃い、協議の結論は次のとおり。

○小沢 十分期待に沿える減税額国税で2兆円の上積みと幹事長から言わせるので、益前の7日までに決着させて欲しい。

○公明 表向きの決着は益前では困る。裏の話をまとめておけば、表のことは益明け8月17、18日ぐらいから審議入りできればよいのではないか。

○小沢 出口を含めてきちんと話をつけてくれるなら、それでよい。

○公明 明日中に公明党内の意見をまとめる。国税2兆円の減税が実現できれば、公明は7日に幹事長・書記長会談で決着させ、18日から審議入りできるように社・民社に働きかける。出口も見通しをつける。

午後9時ごろ、小沢代議士と公明党側の話がつき宴会が始まる。午後11時頃、部屋の置き電話が鳴り私が受話器を取ると相手が竹下幹事長。

○小沢 誰からの電話だ。

回臨時国会を召集した。所信表明の狙いは「税制改革の基本方針」であった。竹下首相は「税制の抜本改革は『中曾根見解』にとらわれない」と発言。大問題となる。

「中曾根見解」とは1985（昭和60）年2月に出された「政府統一見解」で、「多段階、包括的、網羅的、普遍的で大規模な消費税を投網をかけるようなやり方では行わない」というものだ。これは衆院予算委員会、当時、矢野絢也公明党書記長の中曾根首相への質問が引つ張り出した見解であった。公明党としては「とらわれない」といった白紙化を了承できるものはなかった。

12月16日、第112回通常国会召集直前、大久保直彦書記長から新宿の韓国料理店「銀竜閣」に呼ばれた。竹下政権の政局運営について意見を聴きたいとのこと（以下要点）。

○大久保 竹下首相の「中曾根見解」白紙化の発言どう思うか。社会党は常会で紛糾させる種にするという。公明党もその線だ。

○平野 売上税廃案の議長幹旋で、中曾根見解は白紙になっている。「直間比率の見直しを前提に、抜本的税制改革を各党で協議しよう」ということだった。竹

○平野 竹下幹事長からだ。

○小沢 誰がここにいることを教えたのか。

○平野 私が教えた。貴方からの報告を、赤坂満がんで待っている。

○小沢 そうだな。これから行って報告する。

最初は怒っていたが素直に帰る。残った3人はドンチャン騒ぎの宴会を続けた。

減税とマル優原則廃止等を内容とする「所得税法等改正案」の審議入りは、8月7日の幹事長・書記長会談で決着した。9月3日衆院で2兆円の減税を追加修正して議決。同19日参院で可決成立した。この8月4日の小沢・権藤と二見の会談は、竹下幹事長のポスト中曾根の立場を確実にした。さらに自民と公明の連携を強くし、後の非自民連立政権へと繋がる政治展開の源流となった。

10月20日、中曾根自民党総裁は次期総裁に竹下幹事長を指名、31日の臨時党大会で選出された。11月6日に第110回臨時国会が開かれ、首班指名で竹下登首相が誕生した。

竹下政権に対する公明党の基本路線

竹下首相は所信表明を行うため11月27日に第111

下首相は「いかなる条件もつけない」ということで問題はない。

○大久保 国民世論は竹下発言を批判している。君のいう理屈だけでは通らんよ。

○平野 大事などころで見当違いをしている。竹下発言を国民もマスコミも批判していませんよ。ただ、具体的な方向性を示せということで、議論をするなどいうことではないですよ。

○大久保 なるほど、民社は条件闘争だし、山口鶴男社会党書記長は野党が突っ張っていいこうと言うし。公明にとってはやりにくい。

○平野 公明党の政局に対する基本路線はどうなっているんですか。

○大久保 社公民が協力し、まず伯仲状況を再現し、そのうえで自民の一部と連合するなど中道政権を作ろうとすることだ。

○平野 税制改革でいつまでも社会党に付き合っていると、とんでもないことになるよ。

○大久保 どういう意味だ!!
大久保氏が感情的になる。

（次号に続く）